

企業景況調査報告書

(令和5年1～3月期)

< 目次 >

質問1 調査の概要・結果概要	1
質問2 直面している経営上の問題点	2
質問3 賃上げの状況について	3
質問4 意見等自由記載欄	4
DI集計結果・分布	5
調査票様式	6

倉吉商工会議所

倉吉市明治町 1037-11

TEL 0858-22-2191

FAX 0858-22-2193

Email cci3103@kurayoshi-cci.or.jp

倉吉商工会議所企業景況調査報告書（2023年1～3月）

調査対象企業

倉吉市内の商工会議所会員企業 100社

（建設業21社、製造業19社、卸売業11社、小売業22社、サービス業21社、その他6社）

調査方法

各事業所に訪問、FAXにて返信依頼。

調査時期

令和5年4月上旬～令和5年4月中旬

回収状況

93社（回収率93%） ※前回（10～12月）79社

（建設業21社、製造業18社、卸売業10社、小売業19社、サービス業19社、その他6社）

全業種の業況DIは、今期は3業種で上昇、来期は5業種で上昇する見通し

<今期の状況>（5ページ表参照）

今期の全業種の業況DIは、前年同期比で前期の▲17.5から12.1ポイント上昇し、▲5.4となった。業種別に見ると、それぞれ建設業は0（前期▲11.1）、製造業は▲5.6（前期0）、卸売業は▲40.0（前期▲11.1）、小売業は15.8（前期▲28.6）、サービス業は▲5.3（前期▲33.3）、その他の業種は▲33.3（前期▲33.3）で、3業種で上昇、2業種で下降となっている。

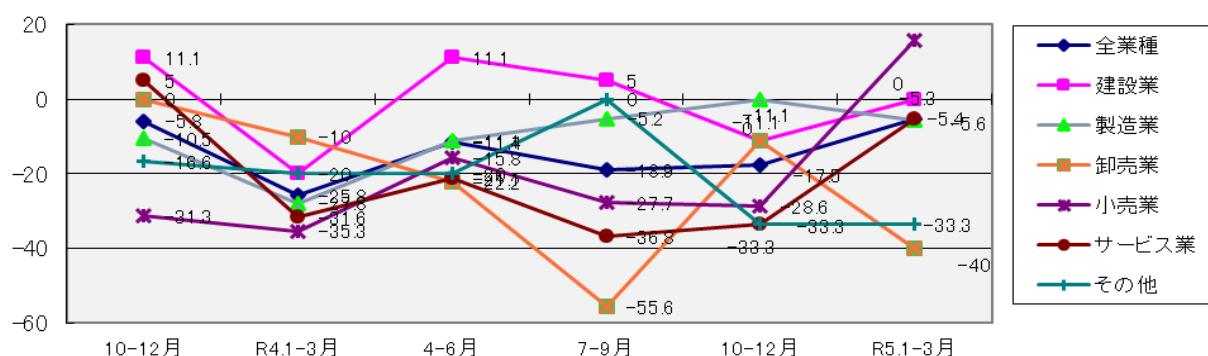
<来期の見通し>（5ページ表参照）

来期の見通し（2023年4～6月）では、全業種のDI値は前期の▲26.6から上昇し、▲9.9となった。業種別に見ると建設業は▲4.8（前期▲5.6）、製造業は▲11.1（前期▲44.4）、卸売業は▲10.0（前期▲22.2）、小売業は0（前期▲21.4）、サービス業は▲26.3（前期▲50.0）と5業種で上昇する見通しとなった。また、その他の業種は0（前期0）で横ばいの見込みである。今期の状況は、上昇と下降に二分していたが、来期はほとんどの業種で上昇の見通しを示す結果となった。

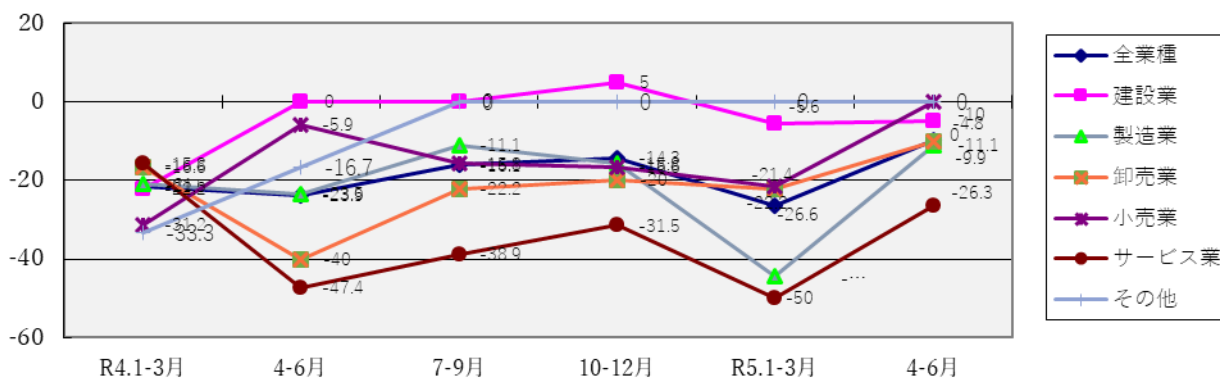
経営上における課題としては、「原材料・仕入価格上昇」が前回に引き続き全業種で上位に挙げられた。製造業では、前回挙がっていなかった「人手不足」が上位に挙がり、全業種でも「人手不足」が増えている。また、「経費の増加」「利益率の減少」など、物価高が影響しているとみられる項目を挙げる事業所も目立つ結果となった。

<業況判断DIの推移> ※今期のDI値集計結果についてはP5をご参照下さい。

(1) 今期の状況 <業種別>



(2) 来期の見通し<業種別>



質問2 直面している経営上の問題点（上位3点を回答）

01 競争激化 02 消費・需要の停滞 03 売上・受注減少 04 売上・受注単価低下
 05 原材料・仕入価格上昇 06 原材料・在庫不足 07 原材料・在庫過剰
 08 店舗・生産設備不足・老朽化 09 店舗・生産設備過剰 10 経費の増加 11 人手不足
 12 人手過剰 13 利益率低下 14 代金回収難 15 資金繰り難 16 新分野進出
 17 その他:具体的に()

〔上位項目〕

※（ ）内は件数

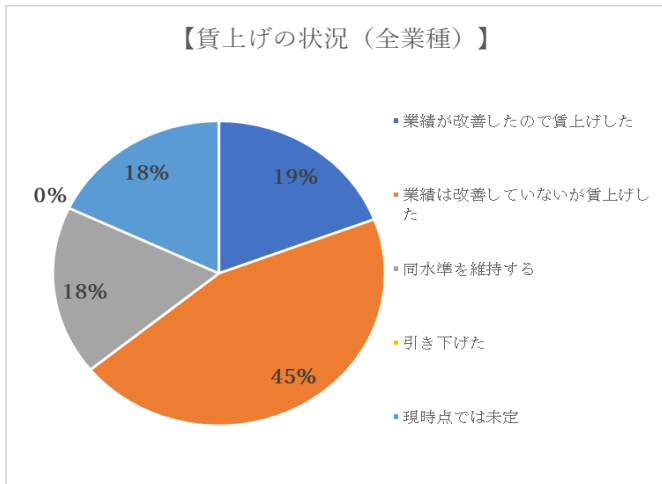
分類		1 位	2 位	3 位
全業種	当 期	原材料・仕入価格上昇 (51)	人手不足 (40)	経費の増加 (34)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (46)	売上・受注減少 (33)	人手不足 (26)
建設業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (14)	人手不足 (12)	利益率低下 (9)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (15)	人手不足 (10)	売上・受注減少 (7) 利益率低下 (7)
製造業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (13)	経費の増加 (8)	人手不足 (7)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (15)	店舗・生産設備不足・老朽化 (8)	売上・受注減少 (7) 経費の増加 (7)
卸売業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (8)	売上・受注減少 (5)	競争激化 (3) 利益率低下 (3)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (5)	売上・受注減少 (4) 経費の増加 (4)	競争激化 (3)
小売業	当 期	消費・需要の停滞 (11)	売上・受注減少 (9)	経費の増加 (8)
	前 期	消費・需要の停滞 (11)	売上・受注減少 (5)	経費の増加 (4)
サービス業	当 期	人手不足 (12)	原材料・仕入価格上昇 (9) 経費の増加 (9)	店舗・生産設備不足・老朽化 (6)
	前 期	人手不足 (8)	原材料・仕入価格上昇 (7)	売上・受注減少 (6)
その他	当 期	原材料・仕入価格上昇 (3) 経費の増加 (3) 人手不足 (3)	競争激化 (2) 利益率低下 (2)	消費・需要の停滞 (1) 売上・受注減少 (1) 原材料・在庫不足 (1) 店舗・生産設備不足・老朽化 (1) その他 (1)
	前 期	売上・受注減少 (4) 経費の増加 (4)	競争激化 (2) 原材料・仕入価格上昇 (2) 人手不足 (2)	消費・需要の停滞 (1) 店舗・生産設備不足・老朽化 (1) 利益率低下 (1) その他 (1)

17 その他

- ・コロナの影響
- ・人口減少
- ・人材育成（経験者不足、資格保有者の不足）
- ・超多忙
- ・価格転嫁
- ・事業承継

質問3 賃上げの状況について

賃上げを実施した企業は全体の6割強

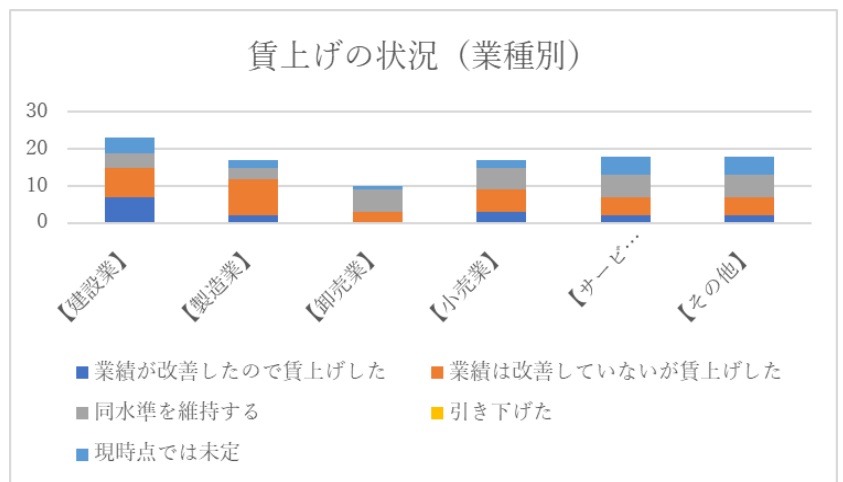


賃上げの状況（左図）については、「業績が改善したので賃上げした」と「業績は改善していないが賃上げした」を合わせると64%の企業が賃上げを実施したという結果となった。そのうちの5割近い企業が、業績が改善していない中でもやり繰りしながら賃上げをしている状況である。

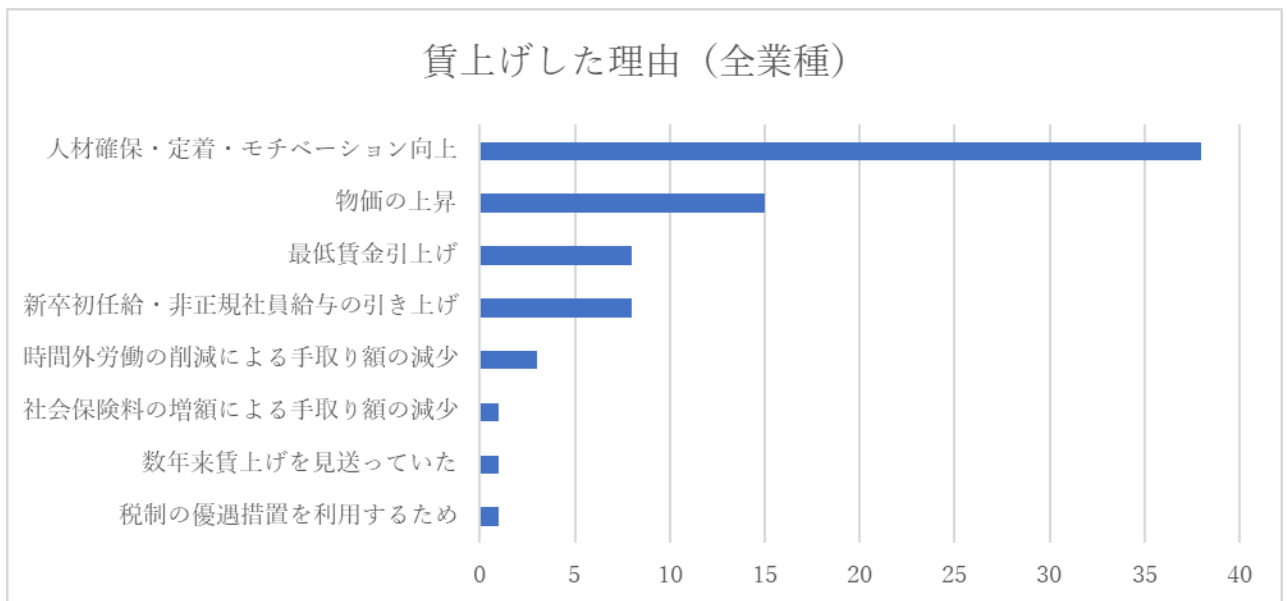
次いで、「同水準を維持する」と「未定」が同率であり、「引き下げた」と回答した企業はなかった。

大手企業の賃上げのニュースが相次ぐ中、自社もさることながら、物価と燃料費の高騰に苦しむ従業員の生活を守るために賃上げに踏み切る企業の現状が浮き彫りになる結果となった。

業種別にみると（右図）、建設業、製造業、小売業の順で賃上げをした企業が多くなっている。仕入価格の増加や利益率の低下が課題として挙がっていた卸売業については、なかなか賃上げに踏み切ることができない状況も窺える。



賃上げした理由（下図）としては、「人材確保・定着・モチベーション向上」が大半を占めており、人手不足の中で人材確保や人材育成に苦慮している企業が多いことがわかる結果となった。また、物価の上昇を理由として挙げた企業も多くみられた。



賃上げに踏み切れていない企業からは、昨今の燃料費や原材料費の高騰による価格転嫁がままならない中で賃上げは考えられず、大企業との温度差を感じるという回答もあった。コロナ禍の売上減少や需要の低迷などから回復できていない企業も多く、コロナ後に期待する一方で、先行き不透明感に不安を感じる声も聞かれた。

質問4 現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望について

【建設業】

- ・材料費上昇による粗利率低下により、まだ光が見えてこない。
- ・熟練技能者の引退に伴う会社の技術力の低下、また経費の増加。
- ・毎年年度末が終わると4~7月頃は受注が減少する。それでも以前は手持ち工事の年度持ち越しができたが、今年は持ち越し工事が少なく、小口物件ばかりで売上金額は上昇しない。公共物件も年度完了でなく、年度またぎが可能になれば受注のバランスもとれ、業務も比較的均等化し、バランスがとれるので、そういうシステムを検討していただけたらありがたい。
- ・従業員の高齢化による退職により人手不足で困っています。

【製造業】

- ・人件費、光熱費、社会保険料等の経費は上がり続けるが、受注は減少、請負加工費は上がらない。受注減少に伴い人員も自然減、人員を増やそうにも人手不足、仕事量不足。
- ・価格転嫁が十分に認めてもらえない中で、大企業の大幅賃上げがあり、大きな温度差を感じると言わざるを得ない。
- ・木材関係の製造業ですが、今年は年明けより動きが鈍い状況です。例年4~6月は受注活発ですが、例年の6~7割の状況です。
- ・「脱コロナ」はかなり感じられるようになってきたので、イベント等を期待したい。

【卸売業】

- ・電気代が高い冷凍機を省エネに交換してきた。それでも高い。少子化、岡山県奈義町（議員・職員）削減対策を。
- ・燃料、電気代高騰対策。

【小売業】

- ・スタッフの年齢が年々上がっているので、モチベーションやスキルの維持・向上に努力したい。

【サービス業】

- ・農業生産者の育成、地産地消、県外のものが増えればお金の流れが変わる。
- ・消費行動に意欲の出る雰囲気を高めていただきたい。
- ・経費高（電気代ガス代他）、仕入単価増による売上利益の圧迫。
- ・コスト高が原因の、物価上昇と不景気になっているように思います。今後、さらに進むのではないかと考えています。思い切った財政出動等の経済対策をお願いしたいと考えております。尚、増税・金利の引き上げなどによるコストの上乗せは、くれぐれもやめていただきたい。
- ・少しずつ人の動きが戻ってきてますが、コロナ前には戻らない。観光地のインバウンド期待。

D I 集 計(前年同期比=2022年1~3月期、来期の見通し=2023年4~6月期)

【製造業・非製造業別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-4.3	-16.6	39.8	30.0	-16.3	-24.7
製造業	0.0	-22.2	55.5	33.3	-16.7	-44.4
非製造業	-5.3	-15.3	36.0	29.2	-16.2	-19.7

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-5.4	-8.9	4.4	4.4	-3.3	12.2
製造業	-5.5	-5.6	11.1	11.1	0.0	11.1
非製造業	-5.4	-9.7	2.7	2.8	-4.1	12.5

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-5.4	-9.9
製造業	-5.6	-11.1
非製造業	-5.4	-9.6

【業種別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-4.3	-16.6	39.8	30.0	-16.3	-24.7
建設業	-4.8	-20.0	47.6	25.0	4.7	-25.0
製造業	0.0	-22.2	55.5	33.3	-16.7	-44.4
卸売業	-50.0	-10.0	40.0	50.0	-60.0	-30.0
小売業	-5.2	-11.8	21.0	23.6	0.0	-12.5
サービス業	21.0	-15.8	42.1	31.5	-26.3	-21.1
その他	-16.6	-16.6	16.7	16.7	-33.3	0.0
非製造業	-5.3	-15.3	36.0	29.2	-16.2	-19.7

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-5.4	-8.9	4.4	4.4	-3.3	12.2
建設業	4.7	-10.0	0.0	0.0	0.0	19.1
製造業	-5.5	-5.6	11.1	11.1	0.0	11.1
卸売業	-20.0	-10.0	0.0	0.0	10.0	10.0
小売業	-10.5	-5.5	5.2	0.0	5.9	31.3
サービス業	-11.1	-16.7	0.0	5.6	-26.3	-5.2
その他	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
非製造業	-5.4	-9.7	2.7	2.8	-4.1	12.5

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-5.4	-9.9
建設業	0.0	-4.8
製造業	-5.6	-11.1
卸売業	-40.0	-10.0
小売業	15.8	0.0
サービス業	-5.3	-26.3
その他	-33.3	0.0
非製造業	-5.4	-9.6

※DI値

売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表します。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。

したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、**強気・弱気などの景気感の相対的な広がり**を意味するものです。DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

事業所名: _____ (お手数ですがご記入をお願いします。)



倉吉商工会議所企業景況調査票(2023年1~3月期)

調査元: 倉吉商工会議所 TEL:22-2191 FAX:22-2193

【質問1】前年同期と比較した今期(2023年1~3月)の状況と、今期と比較した来期(2023年4~6月)の見通しについて、最も近いものに○印をお付けください。

1) 売上高	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
	(来期の見通し)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
2) 売上単価	(前年同期比)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
	(来期の見通し)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
3) 収益状況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
4) 資金繰り	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
5) 借入難度	(前年同期比)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
	(来期の見通し)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
6) 雇用人員	現在の従業員数	人(うち正規雇用者 人)		
	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
7) 貴社の業況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化

【質問2】今期直面している経営上の問題点について、重要度の高い順に該当する番号を回答欄へご記入ください。

- | | |
|------------------|-------------|
| 01 競争激化 | 10 経費の増加 |
| 02 消費・需要の停滞 | 11 人手不足 |
| 03 売上・受注減少 | 12 人手過剰 |
| 04 売上・受注単価低下 | 13 利益率低下 |
| 05 原材料・仕入価格上昇 | 14 代金回収難 |
| 06 原材料・在庫不足 | 15 資金繰り難 |
| 07 原材料・在庫過剰 | 16 新分野進出 |
| 08 店舗・生産設備不足・老朽化 | 17 その他:具体的に |
| 09 店舗・生産設備過剰 | () |

回答欄

1位 _____

2位 _____

3位 _____

【質問3】賃上げに関連して、以下についてお答えください。

1. 貴社の正社員における2022年度(2022年4月~2023年3月)の賃上げ(定期昇給、ベースアップ、手当の新設・増額、一時金(賞与)の増額)の状況について、選択肢から1つお選びください。

- ① () 業績が改善したため、賃上げを実施した ② () 業績は改善していないが賃上げを実施した
③ () 同水準を維持する ④ () 引き下げた ⑤ () 現時点では未定

2. 【1. で①~②と回答した方】正社員の賃上げを行う理由について、選択肢からお選びください。

- ① () 人材確保・定着、モチベーション向上 ② () 最低賃金の引き上げ
③ () 新卒社員の初任給や非正規社員の給与の引き上げ ④ () 時間外労働の削減による手取り額の減少
⑤ () 社会保険料の増額による手取り額の減少 ⑥ () 他社より賃金が低い
⑦ () 数年来賃上げを見送っていた ⑧ () 物価の上昇
⑨ () 税制の優遇措置を利用するため

3. 【1. で③~⑤と回答した方】賃上げできない要因について、選択肢からお選びください。(複数回答可)

- ① () 今後の経営環境・経済状況が不透明なため ② () 業績の改善がみられないため
③ () 社会保険料の増加で会社負担が増えているため ④ () すでに他社と同水準になっているため
⑤ () 増員による総人件費の増加を抑えるため ⑥ () 新商品開発や設備投資等を優先するため
⑦ () 非正規社員の賃金引き上げによる総人件費の増加を抑えるため
⑧ () 研修や福利厚生の実施を優先させるため ⑨ () その他 ()

【質問4】現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望についてご記入ください。